

## 編集後記

6年間にわたり編集委員長を務めさせていただきました。論文を投稿してくださった学会員のみなさま、投稿論文の査読を担当してくださった評議員の先生方、査読の監督と編集を担当してくださった編集委員会の先生方、ありがとうございました。おかげさまで、最初の2年間で和文誌と学会抄録集の完全電子化および査読システムの改変、次の2年間で英文誌 JPCCS の発刊、最後の2年間で「小児・成育循環器学」の発刊をそれぞれ行うことができました。雑誌や教科書の編集と発刊に関する時代に即した下地は少々築けたかなと思っております。この先は須田憲治先生が編集委員長を務めてくださり、新編集委員の先生方とともに、和文・英文共に学会誌を力強くさらなる発展に導いてくださることと確信しております。次の目標としては、英文誌の PubMed 掲載があります。申請可能な実績ができてつありますので、学会員の先生方には是非質の高い原著論文を JPCCS に投稿していただき、本誌が世界を代表する小児循環器学会関連誌に発展できるよう、ご協力をお願いいたします。

ラグビーの W 杯も無事終わり、いよいよ東京オリンピックが開催されようとしています。日本人が古来培ってきた美しい文化とともに、緻密で丁寧な日本の近代システムが、今世界ではたいへん話題になっているようです。日本小児循環器学会も、学術集会や学会誌においては、国内への情報発信にとどまらず、アジアのオピニオンリーダーとして、さらには全世界に向けて素晴らしい情報発信ができるよう、我々日本人ならではの心と技を駆使して発展してゆきたいものです。

(白石 公)